

授業科目	情報科学ⅢA		担当教員	竹中 謙将	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	情報リテラシーを遵守し、コンピューターやネットワークを活用した学習や、プレゼンテーションができる。 国家試験問題の傾向をつかみ、正答率を上げる。				
到達目標	国家試験問題の苦手範囲を理解できる 苦手範囲に対して対策を講じることができる。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物の内容を点数化し、総合計を100点換算し、学則に則り評定する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	提出期限を厳守すること。 提出期限を超過する場合は、事前に連絡をすること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	2	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	3	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	4	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	5	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	6	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	7	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	8	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	9	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	10	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	11	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	12	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	13	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	14	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	15	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		

[illegible]

授業科目	情報科学ⅢB		担当教員	竹中 謙将	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	情報リテラシーを遵守し、コンピューターやネットワークを活用した学習や、プレゼンテーションができる。 国家試験問題の傾向をつかみ、正答率を上げる。				
到達目標	国家試験問題の演習では正答率を前期は70%、後期は90%を目標とする。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物の内容を点数化し、総合計を100点換算し、学則に則り評定する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	提出期限を厳守すること。 提出期限を超過する場合は、事前に連絡をすること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	2	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	3	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	4	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	5	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	6	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	7	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	8	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	9	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	10	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	11	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	12	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	13	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	14	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		
	15	模擬試験の再回答、振り返り、分析	国家試験対策ソフトの活用 模擬試験の苦手範囲の分析、それに対する対策を講じる		

[illegible]

授業科目	徒手関節治療学 A		担当教員	橋田 浩	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数 30 時間
授業目的	マニュアルセラピー（徒手療法）の意義について学び、骨運動と関節運動の関係を理解する。運動機能障害が何によるか系統的に説明できるよう、モビライゼーションの基本的評価・治療手技について学習する。				
到達目標	1. 理学療法におけるマニュアルセラピー（徒手療法）の意義について説明できる。 2. 骨運動（生理的運動）と関節運動（副運動）の関係を理解し、評価・治療技術に適用できる。 3. 運動機能障害が、関節・筋あるいは神経の滑走障害に基づくものか、問題点を系統的に説明できる。 4. 関節および関節の動きを触知でき、モビライゼーションの基本的評価・治療手技を施行できる。				
テキスト・参考図書等	整形徒手理学療法 参考図書：上肢のマニュアルセラピー、脊柱・骨盤のマニュアルセラピー 改訂第 2 版、脊椎の分節的安定性のための運動療法 第 2 版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	演習日には演習ができる服装で参加すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	徒手療法の意義	理学療法における徒手療法の意義		
	2	歴史的背景	徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念		
	3	骨運動と副運動	骨運動と関節運動（副運動）および法則		
	4	用語の定義・解釈	徒手療法における専門用語の定義と解釈		
	5	関節モビライゼーション	関節モビライゼーションの治療原理		
	6	効果、適用・禁忌	関節モビライゼーションの効果と適用・禁忌		
	7	上肢関節手技	上肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習		
	8	下肢関節手技	下肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習		
	9	脊柱の運動学	頸椎・胸椎・腰椎の関節運動学		
	10	仙腸関節の動きと障害	仙腸関節の形態、動きおよび障害		
	11	ニューロダイナミックス	末梢神経の滑走障害の評価と治療法		
	12	腰椎・体幹のスタビリティ	腰椎・体幹のスタビリティの理論的背景とエクササイズへの応用		
	13	脊柱・骨盤の触診	頸椎・胸椎・腰椎関節および骨盤について触診の実習		
	14	脊椎関節手技	頸椎・胸椎関節に対するモビライゼーション手技の実習		
	15	仙腸関節手技	仙腸関節の障害の評価と基本的治療手技		

授業科目	徒手関節治療学 A	担当 教員 実務 経験	橋田浩 有：■ 無：□	道外の病院にて理学療法士として 10 年以上勤務
対象年次・学期	4 年 ・ 前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	徒手関節治療学 B		担当教員	橋田 浩	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	マニュアルセラピー（徒手療法）の意義について学び、骨運動と関節運動の関係を理解する。運動機能障害が何によるか系統的に説明できるよう、モビライゼーションの基本的評価・治療手技について学習する。				
到達目標	1. 理学療法におけるマニュアルセラピー（徒手療法）の意義について説明できる。 2. 骨運動（生理的運動）と関節運動（副運動）の関係を理解し、評価・治療技術に適用できる。 3. 運動機能障害が、関節・筋あるいは神経の滑走障害に基づくものか、問題点を系統的に説明できる。 4. 関節および関節の動きを触知でき、モビライゼーションの基本的評価・治療手技を施行できる。				
テキスト・参考図書等	整形徒手理学療法 参考図書：上肢のマニュアルセラピー、脊柱・骨盤のマニュアルセラピー 改訂第 2 版、脊椎の分節的安定性のための運動療法 第 2 版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	演習日には演習ができる服装で参加すること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	徒手療法の意義	理学療法における徒手療法の意義		
	2	歴史的背景	徒手療法の歴史的背景と諸家の治療概念		
	3	骨運動と副運動	骨運動と関節運動（副運動）および法則		
	4	用語の定義・解釈	徒手療法における専門用語の定義と解釈		
	5	関節モビライゼーション	関節モビライゼーションの治療原理		
	6	効果、適用・禁忌	関節モビライゼーションの効果と適用・禁忌		
	7	上肢関節手技	上肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習		
	8	下肢関節手技	下肢関節に対する基本的モビライゼーション手技の実習		
	9	脊柱の運動学	頸椎・胸椎・腰椎の関節運動学		
	10	仙腸関節の動きと障害	仙腸関節の形態、動きおよび障害		
	11	ニューロダイナミックス	末梢神経の滑走障害の評価と治療法		
	12	腰椎・体幹のスタビリティ	腰椎・体幹のスタビリティの理論的背景とエクササイズへの応用		
	13	脊柱・骨盤の触診	頸椎・胸椎・腰椎関節および骨盤について触診の実習		
	14	脊椎関節手技	頸椎・胸椎関節に対するモビライゼーション手技の実習		
	15	仙腸関節手技	仙腸関節の障害の評価と基本的治療手技		

授業科目	徒手関節治療学 B	担当 教員 実務 経験	橋田浩 有：■ 無：□	道外の病院にて理学療法士として 10 年以上勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法演習ⅠA		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45 回	時間数
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、各分野について学習する。				
到達目標	〔前期〕解剖学・生理学・運動学を中心に学習し理解を深め、第1回卒業試験でより高い点数を獲得できる。 〔後期〕模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 必修ポイント専門基礎分野臨床医学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	① (1 回目点数) × 25% + (2 回目点数) × 75% = 168 / 280 点以上が合格 A:224 点以上、B:196 点以上、C:168 点以上、168 点未満は再試験を実施する。 ② 再試験は、168 / 280 点以上が合格		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	国家試験までの流れについて説明する。		
	2	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	3	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	4	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	5	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	6	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	7	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	8	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	9	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	10	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	11	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	12	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	13	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	14	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	15	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	16	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	17	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	18	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	19	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	20	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	21	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	22	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	23	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		

	24	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	神経筋疾患	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	34	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	35	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	36	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	37	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	38	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	39	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	40	リハビリテーション概論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	41	その他	模試など
	42	その他	模試など
	43	その他	模試など
	44	その他	模試など
	45	その他	模試など

[illegible]

授業科目	理学療法演習 I B		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45 回	時間数
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、共通分野について学習する。				
到達目標	〔前期〕解剖学・生理学・運動学を中心に学習し理解を深め、第 1 回卒業試験でより高い点数を獲得できる。 〔後期〕模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	必修ポイント専門基礎分野基礎医学 必修ポイント専門基礎分野臨床医学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	① (1 回目点数) × 25% + (2 回目点数) × 75% = 168 / 280 点以上が合格 A:224 点以上、B:196 点以上、C:168 点以上、168 点未満は再試験を実施する。 ② 再試験は、168 / 280 点以上が合格		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	国家試験までの流れについて説明する。		
	2	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	3	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	4	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	5	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	6	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	7	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	8	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	9	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	10	解剖学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	11	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	12	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	13	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	14	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	15	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	16	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	17	生理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	18	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	19	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	20	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	21	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	22	運動学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	23	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		

	24	臨床医学総論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	内部障害学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	骨関節障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	神経筋疾患	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	34	人間発達・発達障害	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	35	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	36	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	37	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	38	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	39	精神医学・心理学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	40	リハビリテーション概論	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	41	その他	模試など
	42	その他	模試など
	43	その他	模試など
	44	その他	模試など
	45	その他	模試など

[illegible]

授業科目	理学療法演習ⅡA		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45回	時間数
					90時間
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、専門分野について学習する。				
到達目標	模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800 必修ポイント専門基礎分野基礎医学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	演習課題の内容により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	2	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	3	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	4	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	5	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	6	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	7	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	8	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	9	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	10	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	11	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	12	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	13	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	14	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	15	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	16	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	17	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	18	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	19	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	20	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	21	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	22	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	23	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		

	24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	その他	模試など
	34	その他	模試など
	35	その他	模試など
	36	その他	模試など
	37	その他	模試など
	38	その他	模試など
	39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目	理学療法演習ⅡA	担当 教員 実務 経験	塚田雅弘 有：■ 無：□	市内の整形外科クリニックにて 理学療法士として 15 年勤務
対象年次・学期	4 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法演習ⅡB		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	45回	時間数
					90時間
授業目的	国家試験全員合格を目指すため、専門分野について学習する。				
到達目標	模擬試験で学習の定着状況を確認しながら、国家試験合格を目指す。				
テキスト・参考図書等	PT・OT 国家試験共通問題 頻出キーワード 1800 必修ポイント専門基礎分野基礎医学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	演習課題の内容により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	国家試験に直接出題される分野であり、基礎ともなる内容であるため、繰り返し何度も復習して知識を定着させること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	2	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	3	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	4	基礎理学療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	5	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	6	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	7	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	8	評価法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	9	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	10	運動療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	11	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	12	物理療法	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	13	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	14	義肢装具学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	15	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	16	ADL	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	17	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	18	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	19	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	20	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	21	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	22	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		
	23	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。		

	24	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	25	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	26	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	27	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	28	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	29	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	30	各領域の評価・治療	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	31	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	32	地域理学療法学	過去問題を分析し、基礎項目を講義する。
	33	その他	模試など
	34	その他	模試など
	35	その他	模試など
	36	その他	模試など
	37	その他	模試など
	38	その他	模試など
	39	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	40	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	41	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	42	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	43	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	44	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。
	45	グループ学習	グループごとに、国家試験対策の学習を進めていく。

授業科目	理学療法演習ⅡB	担当 教員 実務 経験	塚田雅弘 有：■ 無：□	市内の整形外科クリニックにて 理学療法士として 15 年勤務
対象年次・学期	4 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法課題研究ⅠA		担当教員	横野 裕行	
対象年次・学期	3年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	・1～3年次に理学療法研究法Ⅰ～Ⅲで学習してきたことを基に、実践を通して研究の流れを理解する。 ・卒業研究として具体的に興味のあるテーマを設定し、研究計画を立てて実施する。				
到達目標	・興味あるテーマに関する先行研究について文献検索を行うことができる。 ・先行研究を基にリサーチクエスチョンを明確にして、目的・方法を立案し研究計画書を作成できる。 ・計画書に基づいて予備研究を行い、方法を見直してデータ収集ができる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物（授業課題、研究計画書）、取り組み姿勢などから総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	40			
履修上の留意事項	担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、主体的に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、文献検索	卒業研究の流れについて。文献検索の方法の確認、実施。		
	2	文献抄読	グループ演習		
	3	研究計画書の作成1	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う		
	4	研究計画書の作成2	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う		
	5	研究計画書の作成3	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	6	研究計画書の作成4	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	7	研究計画書の作成5	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	8	研究計画書の作成6	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	9	研究計画書の作成7	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	10	予備研究1	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	11	予備研究2	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	12	予備研究3	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	13	予備研究4	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	14	データ収集1	計画書に基づきデータ収集を行う		
	15	データ収集2	計画書に基づきデータ収集を行う		

授業科目	理学療法課題研究ⅠA	担当 教員 実務 経験	塚田雅弘 有：■ 無：□	札幌市内の整形外科クリニック にて15年勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法課題研究 I B		担当教員	横野 裕行	
対象年次・学期	3 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	・1～3 年次に理学療法研究法 I ～III で学習してきたことを基に、実践を通して研究の流れを理解する。 ・卒業研究として具体的に興味のあるテーマを設定し、研究計画を立てて実施する。				
到達目標	・興味あるテーマに関する先行研究について文献検索を行うことができる。 ・先行研究を基にリサーチクエスチョンを明確にして、目的・方法を立案し研究計画書を作成できる。 ・予備研究を行い方法を見直してデータ収集ができる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物（授業課題、研究計画書）、取り組み姿勢などから総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
	その他	40			
履修上の留意事項	担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、主体的に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、文献検索	卒業研究の流れについて。文献検索の方法の確認、実施。		
	2	文献抄読	グループ演習		
	3	研究計画書の作成 1	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う		
	4	研究計画書の作成 2	先行研究を基にリサーチ・クエスチョン、目的を明確にして計画書の作成を行う		
	5	研究計画書の作成 3	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	6	研究計画書の作成 4	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	7	研究計画書の作成 5	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	8	研究計画書の作成 6	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	9	研究計画書の作成 7	担当教員の指導・助言を交え計画書の作成を行う		
	10	予備研究 1	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	11	予備研究 2	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	12	予備研究 3	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	13	予備研究 4	研究計画書に基づき予備研究を行い、方法の修正・見直しをする		
	14	データ収集 1	計画書に基づきデータ収集を行う		
	15	データ収集 2	計画書に基づきデータ収集を行う		

授業科目	理学療法課題研究ⅠB	担当 教員 実務 経験	塚田雅弘 有：■ 無：□	札幌市内の整形外科クリニック にて15年勤務
対象年次・学期	3年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法課題研究ⅡA		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	・理学療法課題研究Ⅰから継続して、実践を通して研究手法について学ぶ。 ・卒業研究として自ら設定したテーマに基づき収集したデータをまとめ、論文やプレゼンテーション資料を作成し、わかりやすい形で発表を行う。				
到達目標	・収集したデータを適切な統計学的手法を用いて解析できる。 ・論文規定に沿って、先行研究を参照しながら自らの考察を交えて論文を作成できる。 ・研究成果を的確にまとめ、わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	取り組み姿勢と、プレゼンテーション資料・発表・論文の内容を踏まえて総合的に評価する		
	レポート	40			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	40			
履修上の留意事項	卒業研究の発表は、自ら設定した研究テーマについて調べまとめるという集大成の場となります。担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、計画的、主体的に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、データ解析、発表準備	オリエンテーション。収集したデータの解析、論文・プレゼン資料の作成を行う		
	2	論文作成のポイント、データ解析、発表準備	論文規定に沿った書式の作成方法について理解する 収集したデータの解析、論文、プレゼン資料の作成を行う		
	3	スライド作成のポイント、発表準備	見やすい発表用スライドの作成方法について理解する 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	4	口述発表のポイント、発表準備	わかりやすい発表に向けてプレゼンテーションの方法について理解する 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	5	発表準備	論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	6	発表準備	論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	7	発表準備	論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	8	予演会	発表のリハーサルを行い、スライドや発表方法の修正を行う		
	9	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る		
	10	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る		
	11	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る		
12	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する			

			他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
	13	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
	14	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
	15	まとめ	発表時の質疑応答を基に振り返り、論文、プレゼン資料の修正を行う

[illegible]

授業科目	理学療法課題研究ⅡB		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	・理学療法課題研究Ⅰから継続して、実践を通して研究手法について学ぶ。 ・卒業研究として自ら設定したテーマに基づき収集したデータをまとめ、論文やプレゼンテーション資料を作成し、わかりやすい形で発表を行う。				
到達目標	・収集したデータを適切な統計学的手法を用いて解析できる。 ・論文規定に沿って、先行研究を参照しながら自らの考察を交えて論文を作成できる。 ・研究成果を的確にまとめ、わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。				
テキスト・参考図書等	特に指定はしない				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	取り組み姿勢と、プレゼンテーション資料・発表・論文の内容を踏まえて総合的に評価する		
	レポート	40			
	小テスト	0			
	提出物	20			
	その他	40			
履修上の留意事項	卒業研究の発表は、自ら設定した研究テーマについて調べまとめるという集大成の場となります。担当教員との報告・連絡・相談を密に行い、計画的、主体的に取り組んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、データ解析、発表準備	オリエンテーション。収集したデータの解析、論文・プレゼン資料の作成を行う		
	2	論文作成のポイント、データ解析、発表準備	論文規定に沿った書式の作成方法について理解する 収集したデータの解析、論文、プレゼン資料の作成を行う		
	3	スライド作成のポイント、発表準備	見やすい発表用スライドの作成方法について理解する 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	4	口述発表のポイント、発表準備	わかりやすい発表に向けてプレゼンテーションの方法について理解する 論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	5	発表準備	論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	6	発表準備	論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	7	発表準備	論文、プレゼン資料を作成し、発表準備を行う		
	8	予演会	発表のリハーサルを行い、スライドや発表方法の修正を行う		
	9	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る		
	10	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る		
	11	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る		

	12	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
	13	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
	14	卒業研究発表	自らの研究成果を発表し、質疑応答に対応する 他の学生の発表を聴講することにより、新たな知識を得る
	15	まとめ	発表時の質疑応答を基に振り返り、論文、プレゼン資料の修正を行う

授業科目	理学療法課題研究ⅡB	担当 教員 実務 経験	塚田雅弘 有：■ 無：□	札幌市内の整形外科クリニック にて 15 年勤務
対象年次・学期	4 年・前期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	臨床実習ⅢA		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	180回	時間数 360時間
授業目的	3年次の総合臨床実習を踏まえ、実際の症例の状況や変化に応じた評価手技の応用性を養うとともに、理学療法の実施に際しても反応や変化を適確に把握し、ゴールやプログラムの変更を含む理学療法の進め方を理解する。次の点を最重要視する。 1) 理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、患者の反応や変化を具体的に把握する。 2) リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践する。				
到達目標	a) 症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b) 収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c) 症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d) ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e) 理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き 第6版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	25			
	その他	75			
履修上の留意事項	学生として最後の実習となります。悔いが残らないよう対象者第一に考え行動し、充実した実習にして下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【第1-10回】 1. 実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。		
	2	【第11-165回】 2. 臨床実習	各実習施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療までの一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。 1)理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、対象者の反応や変化を具体的に把握する。 2)リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践して運営・管理について学ぶ。		
	3	【第166-180回】 3. 実習後評価	実習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認する。		

[illegible]

授業科目	臨床実習ⅢB		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	180 回	時間数 360 時間
授業目的	3 年次の総合臨床実習を踏まえ、実際の症例の状況や変化に応じた評価手技の応用性を養うとともに、理学療法の実施に際しても反応や変化を適確に把握し、ゴールやプログラムの変更を含む理学療法の進め方を理解する。次の点を最重要視する。1) 理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、患者の反応や変化を具体的に把握する。、2) リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践する。				
到達目標	a) 症例に即した情報収集と検査・測定を迅速に実施できる。 b) 収集したデータを統合・解釈し、問題点に対するゴールを立案する。 c) 症例の社会的背景を踏まえ総合的な視点から考察する。 d) ゴールに対する理学療法プログラムを作成し実施する。 e) 理学療法の基本的な原理を把握し、治療技術を実際に行い再評価を行うことで対象者の変化を把握し、その理由を考察する。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き 第 6 版 臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	臨床実習指導者の評定、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	25			
	その他	75			
履修上の留意事項	学生として最後の実習となります。悔いが残らないよう対象者第一に考え行動し、充実した実習にして下さい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【第 1-10 回】 1. 実習前評価	実習前筆記・実技試験にて、直接対象者に接するに当たり、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。		
	2	【第 11-165 回】 2. 臨床実習	各実習施設に赴き実習指導者の指示のもと、評価から治療までの一連の流れを臨床参加型の実習を通して学ぶ。1) 理学療法の実施にあたり、観察や記録・再評価を確実に行うことにより、対象者の反応や変化を具体的に把握する。、2) リハビリテーションチームの一員としての役割を担い、それに即した行動を実践して運営・管理について学ぶ。		
	3	【第 166－180 回】 3. 実習後評価	実習後筆記・実技試験にて、実習の成果として、総合的知識及び基本的技能・態度がどれくらい身についたかを確認する。		

[illegible]

授業科目	救急救命学 A		担当教員	横野 裕行	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	8 回	時間数
授業目的	臨床場面でのリスク管理の一環として、救急法について知識・理解を深めると共に、基本的手技も併せて経験する。				
到達目標	救急法について理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	緊急時対応は突然必要になります。いざという場面で必要になる知識と技術であることを念頭に、授業を受けてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	救急法概論	医師法と一般応急手当と基礎知識		
	2	救急法概論	ビデオ、スライド使用		
	3	各パートについて	出血、止血法、傷への対応		
	4	各パートについて	三角巾の扱い方		
	5	各パートについて	凍傷、火傷、咬傷、気道の確保		
	6	各パートについて	頭のケガ、関電、電撃		
	7	各パートについて	蘇生法（人工呼吸）		
	8	各パートについて	蘇生法（心マッサージ）		

[illegible]

授業科目	救急救命学 B		担当教員	横野 裕行	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	8 回	時間数
授業目的	臨床場面でのリスク管理の一環として、救急法について知識・理解を深めると共に、基本的手技も併せて経験する。				
到達目標	救急法について理解する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	緊急時対応は突然必要になります。いざという場面で必要になる知識と技術であることを念頭に、授業を受けてください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	救急法概論	医師法と一般応急手当と基礎知識		
	2	救急法概論	ビデオ、スライド使用		
	3	各パートについて	出血、止血法、傷への対応		
	4	各パートについて	三角巾の扱い方		
	5	各パートについて	凍傷、火傷、咬傷、気道の確保		
	6	各パートについて	頭のケガ、関電、電撃		
	7	各パートについて	蘇生法（人工呼吸）		
	8	各パートについて	蘇生法（心マッサージ）		

[illegible]

授業科目	健康増進科学 A		担当教員	武田 祐貴	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	8 回	時間数
授業目的	健康増進に必要な運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。				
到達目標	適切な運動・栄養・休養を日常生活に効果的または安全に取り入れる方法について理解する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	毎回の授業終了時に行う小テストにより評価する。 合計点が 6 割以上のものを合格とする。		
	レポート	0			
	小テスト	100			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	健康寿命の延伸は社会の要請であり、理学療法士・作業療法士はこれに応えていく必要がある。そのために必要な運動や栄養学の視点と予防的取り組みの視点を得ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	予防リハビリテーション概説			
	2	予防リハビリテーションの理解と実際			
	3	近年における予防の動向			
	4	介護予防事業			
	5	認知症予防、精神疾患の予防			
	6	栄養学からみた予防リハビリテーション			
	7	栄養学からみた予防リハビリテーション			
	8	災害医療、災害リハビリテーションの概要			

[illegible]

授業科目	健康増進科学 B		担当教員	武田 祐貴	
対象年次・学期	4 年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	8 回	時間数
授業目的	健康増進に必要な運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。				
到達目標	適切な運動・栄養・休養を日常生活に効果的または安全に取り入れる方法について理解する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	毎回の授業終了時に行う小テストにより評価する。 合計点が 6 割以上のものを合格とする。		
	レポート	0			
	小テスト	100			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	健康寿命の延伸は社会の要請であり、理学療法士・作業療法士はこれに応えていく必要がある。そのために必要な運動や栄養学の視点と予防的取り組みの視点を得ること。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	予防リハビリテーション概説			
	2	予防リハビリテーションの理解と実際			
	3	近年における予防の動向			
	4	介護予防事業			
	5	認知症予防、精神疾患の予防			
	6	栄養学からみた予防リハビリテーション			
	7	栄養学からみた予防リハビリテーション			
	8	災害医療、災害リハビリテーションの概要			

[illegible]

授業科目	理学療法管理学 A		担当教員	福島 篤	
対象年次・学期	4 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
					30 時間
授業目的	管理の理解と理学療法士の職場運営について学ぶ。				
到達目標	管理、管理的活動について理解し、理学療法業務における管理について説明できる。				
テキスト・参考図書等	参考図書≪15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト≫理学療法管理学（中山書店）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	理学療法士として職場に勤務してから活用する知識・技術について学習するので、どのように実践するかを意識して受講してほしい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	管理の意義と目的	オリエンテーション、管理の意義と目的について学習する		
	2	理学療法の法的根拠、プロフェッショナリズム	各種法的根拠について学ぶとともに、倫理要綱、ジュネーブ宣言、患者の自己決定権、インフォームドコンセント及び守秘義務について学習する。		
	3	理学療法における情報管理	理学療法における指示の意味と適切な診療記録、書類管理について学ぶとともに個人情報保護法や情報セキュリティの基本について学習する。		
	4	組織管理と職業倫理	組織構成と医療関連倫理について学ぶ。		
	5	業務管理・職場管理と多職種連携	理学療法士の業務・職場管理と組織内外の関連職種との連携について学習する。		
	6	医療法と診療報酬	職場管理の観点から医療保険制度と診療報酬について学ぶ。		
	7	医療安全管理（1）	医療の現場におけるリスク管理と安全管理（機器の保守点検・機器の配置含む）		
	8	介護保険法と介護報酬	職場管理の観点から介護保険制度と介護報酬について学ぶ		
	9	医療安全管理（2）	介護の現場におけるリスク管理と安全管理		
	10	医療安全管理（3）	ヒューマンエラーに関連する要因と予防策について学び、具体的な予防的取組について学習する。		
	11	管理に活かすコミュニケーション（1）	行動変容アプローチに関する概念、実践例について学習する。		
	12	管理に活かすコミュニケーション（2）	対象者への関わり方のヒントとしてコーチングとティーチングについて学習する。		
	13	管理に活かすコミュニケーション（3）	関係者との円滑な関係性構築に役立つヘルスコミュニケーションについて学ぶ。		
	14	臨床業務と自己研鑽	社会人・専門職としての自己研鑽について学習します。（キャリアラダーの作成など）		
15	ハラスメント	種々のハラスメントやその対処法について学びます。			

授業科目	理学療法管理学 A	担当 教員 実務 経験	渡邊 康介 有：■ 無：□	理学療法士として市内病院に勤務。
対象年次・学期	4 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法管理学 B		担当教員	福嶋 篤	
対象年次・学期	4 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15 回	時間数
授業目的	管理の理解と理学療法士の職場運営について学ぶ。				
到達目標	管理、管理的活動について理解し、理学療法業務における管理について説明できる。				
テキスト・参考図書等	参考図書≪15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト≫理学療法管理学（中山書店）				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100	定期試験により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
	その他	0			
履修上の留意事項	理学療法士として職場に勤務してから活用する知識・技術について学習するので、どのように実践するかを意識して受講してほしい。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	管理の意義と目的	オリエンテーション・管理の意義と目的について学習する。		
	2	理学療法の法的根拠、プロフェッショナリズム	各種法的根拠について学ぶとともに、倫理要綱、ジュネーブ宣言、患者の自己決定権、インフォームドコンセント及び守秘義務について学習する。		
	3	理学療法における情報管理	理学療法における指示の意味と適切な診療記録、書類管理について学ぶとともに個人情報保護法や情報セキュリティの基本について学習する。		
	4	組織管理と職業倫理	組織構成と医療関連倫理について学ぶ。		
	5	業務管理・職場管理と多職種連携	理学療法士の業務・職場管理と組織内外の関連職種との連携について学習する。		
	6	医療法と診療報酬	職場管理の観点から医療保険制度と診療報酬について学ぶ。		
	7	医療安全管理（1）	医療の現場におけるリスク管理と安全管理（機器の保守点検・機器の配置含む）		
	8	介護保険法と介護報酬	職場管理の観点から介護保険制度と介護報酬について学ぶ		
	9	医療安全管理（2）	介護の現場におけるリスク管理と安全管理		
	10	医療安全管理（3）	ヒューマンエラーに関連する要因と予防策について学び、具体的な予防的取組について学習する。		
	11	管理に活かすコミュニケーション（1）	行動変容アプローチに関する概念、実践例について学習する。		
	12	管理に活かすコミュニケーション（2）	対象者への関わり方のヒントとしてコーチングとティーチングについて学習する。		
	13	管理に活かすコミュニケーション（3）	関係者との円滑な関係性構築に役立つヘルスコミュニケーションについて学ぶ。		
	14	臨床業務と自己研鑽	社会人・専門職としての自己研鑽について学習します。（キャリアラダーの作成など）		
15	ハラスメント	種々のハラスメントやその対処法について学びます。			

授業科目	理学療法管理学 B	担当 教員 実務 経験	福嶋篤 有：■ 無：□	理学療法士として市内病院、訪問 看護ステーションに勤務。
対象年次・学期	4 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法特論 A		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23 回	時間数 45 時間
授業目的	理学療法の臨床現場で用いられている治療法や最近のトピックスなどを学ぶ。				
到達目標	理学療法の臨床現場で用いられている治療法を理解できる。				
テキスト・参考図書等	配布資料				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	実技のしやすい服装で臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	テーピングの概念	テーピングの概念について学習する。		
	2	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	3	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	4	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	5	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	6	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	7	レッドコードの概念	レッドコードの理論について学習する。		
	8	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。		
	9	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。		
	10	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。		
	11	PNF 総論・基本手技	PNFの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。		
	12	PNF 総論・基本手技	PNFの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。		
	13	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	14	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	15	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	16	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	17	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。		
	18	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。		
	19	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。		
	20	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。		
21	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。			

	22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
	23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 A	担当 教員 実務 経験	塚田雅弘 有：■ 無：□	市内整形外科病院にて理学療法士として 21 年間勤務
対象年次・学期	4 年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	理学療法特論 B		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4 年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23 回	時間数
					45 時間
授業目的	理学療法の臨床現場で用いられている治療法や最近のトピックスなどを学ぶ。				
到達目標	理学療法の臨床現場で用いられている治療法を体験する。				
テキスト・参考図書等	配布資料				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物により評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	100			
	その他	0			
履修上の留意事項	実技のしやすい服装で臨むこと。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	テーピングの概念	テーピングの概念について学習する。		
	2	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	3	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	4	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	5	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	6	テーピング実習	足関節・膝関節へのテーピング方法を学習する。、肉離れの処置について学習する。		
	7	レッドコードの概念	レッドコードの理論について学習する。		
	8	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。		
	9	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。		
	10	レッドコードの実習	レッドコードの方法について学習する。		
	11	PNF 総論・基本手技	PNFの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。		
	12	PNF 総論・基本手技	PNFの理論と促通のパターンを理解し、基本的な手技を実習する。		
	13	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	14	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	15	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	16	ボバースの概念・基本手技	ボバース概念と促通の基本的な手技を実習する。		
	17	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。		
	18	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。		
	19	リンパマッサージ	リンパの流れを理解し、基本的な手技を実習する。		
	20	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。		
21	ウィメンズ・メンズヘルス	概要と基本手技を学ぶ。			

	22	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。
	23	喀痰等の吸引	喀痰等の吸引方法を理解し、基本的な手技を実習する。

授業科目	理学療法特論 B	担当 教員 実務 経験	塚田雅弘 有：■ 無：□	市内整形外科病院で理学療法士 として２１年間勤務
対象年次・学期	４年・通年	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	臨床実習IVA		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23 回	時間数 45 時間
授業目的	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での生活を支えるための理学療法の役割を学ぶ。				
到達目標	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支えるための理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き 第5版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	臨床実習指導者の評価、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	25			
	その他	75			
履修上の留意事項	総合臨床実習を終えた後の時期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハビリテーションについて、経験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じて、生活について現実的な捉え方が出来るようになってください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【第 1-45 回】 1. 臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または訪問リハビリテーション場面における見学、体験を通して、理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステムの強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを把握し、理学療法の役割を確認する。		

[illegible]

授業科目	臨床実習IVB		担当教員	元木 純	
対象年次・学期	4 年・後期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	23 回	時間数
授業目的	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において実習を行い、地域での生活を支えるための理学療法の役割を学ぶ。				
到達目標	訪問リハビリテーションまたは通所リハビリテーション提供施設において、地域での生活を支えるための理学療法の具体的な取り組みへの理解を深める。				
テキスト・参考図書等	臨床実習教育の手引き 第 5 版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	臨床実習指導者の評価、実習報告会の発表内容、提出物等を併せ、総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	25			
	その他	75			
履修上の留意事項	総合臨床実習を終えた後の時期に位置付けられている実習です。この実習の目標である地域リハビリテーションについて、経験を通じて学んでください。地域に暮らす対象者との交流を通じて、生活について現実的な捉え方が出来るようになってください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	【第 1-45 回】 1. 臨床実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーション施設において指導者のもと実習を行う。多様化する保健・医療・福祉・介護等のニーズに対応するため、通所または訪問リハビリテーション場面における見学、体験を通して、理学療法士の役割を知る。さらに地域包括ケアシステムの強化に資するための知見を得るとともに利用者ニーズを把握し、理学療法の役割を確認する。		

授業科目	臨床実習IVB	担当 教員 実務 経験	有本邦洋 有：■ 無：□	道外医療施設にて理学療法士として6年勤務
対象年次・学期	4年・後期	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		